

## ■ 全体講評

今回の公開模試は、次の内容を根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

- ①午後Ⅰ記述式試験では、テーマや業種が広い範囲で出題される特性を踏まえて、問1はデジタルトランスフォーメーション推進にかかわる新傾向の分野の問題であること、問2はモバイルコンピューティングの企画段階における監査という良い意味でオーソドックスな問題であること、問3は改正個人情報保護法が2022年4月に施行されたことを根拠に個人情報にかかわるタイムリーなトピックを題材にした問題であること、など問題の構成に偏りが無いこと
- ②午後Ⅱ論述式試験では、問1は“人工知能技術を活用したシステム企画・開発に関する監査”というデジタルトランスフォーメーション推進にかかわる新傾向の分野の問題であること、問2は“情報システムに関する内部不正対策の監査”という良い意味でオーソドックスな問題であること、以上、新傾向のトピックを題材にした問題とオーソドックスな問題というバランスの良い問題構成であること

次に、午後Ⅰ記述試験講評、午後Ⅱ論述式試験講評を述べます。

## ■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1は“デジタルトランスフォーメーション推進基本計画の監査”，問2は“モバイルコンピューティングの企画段階における監査”，問3は“個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査”です。

システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、テーマや業種が広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活用できるテーマを選んで解答することが重要です。

問題の選択についてですが、基本的には問1、問2を選択する受験者が多いです。今回の試験では問3は“個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査”という、外部委託にかかわる監査がテーマでした。問3の選択率が30%ほどで低いです。今回は正答率の低い問3を選択しなかったことは適切かもしれません。

受験者の技術レベルや知識レベルはみなさん異なります。そのため、あなたにとって解きやすい問題が問3に出題されるかもしれません。本試験においては、問3まで問題の概要をチェックするようにするとよいでし

よう。

次に、記述式問題における確認項目を列挙して説明します。

**(1) 監査手続に、監査技法、監査技法の適用先、確かめる内容を含める。**

監査手続を適切に表現できなければ、この試験の合格は危ういです。記述式問題において監査手続を問われた場合は、監査手続に、監査技法、監査技法の適用先、確かめる内容を含めるようにします。

**(2) 問題文を読みながら監査技法の適用先、すなわち、監査証拠に成り得るドキュメントなどを識別する。**

問題文を読みながらドキュメントの名称をチェックしておきましょう。

**(3) 設問において“どのような検討”，“どのようなコスト”，“どのような場合”が問われている場合、それぞれ“～検討”，～“コスト”，“～場合”という表現を解答に盛り込む。**

これは論述式試験にも適用できます。設問で“どのような観点から”と問われている場合、“～観点から”などと“観点”を含めて論じるようにします。

**(4) 設問文に含まれている、解答を導くための記述を識別することで正答する。**

文章が長い設問では、それだけ解答を導くための記述が多いということです。設問文が長文の場合、しっかりと解答を導くための記述を識別することが重要です。例えば、“～事項”が問われている場合、事項を修飾している“～”の部分に着目します。

記述式問題の点数は、ボーダーラインである60点付近に集中します。以上の四つの内容に留意して、解答を作成して、なおかつ、時間が余ったら、解けたと思っている解答を含めて見直すことが重要です。

## ■午後Ⅱ論述式試験講評

2問中1問の選択になります。問1は、“人工知能技術を活用したシステム企画・開発に関する監査”，問2は、“情報システムに関する内部不正対策の監査”です。

基本ができていないと午後Ⅱ論述式試験突破は難しいです。午後Ⅱ論述式試験では、次の点を確認してください。

- (1) 名詞が問われている場合、あるいは、箇条書きのタイトル、以外では、体言止めを使用しない。
- (2) 略字を使用しない。
- (3) 禁則処理を行う。
- (4) “である”調に統一する。

- (5) “お客様”，“いただく”，“～殿”などのていねい語は使わない。
- (6) 問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する。
- (7) 解答冊子における，設問イやウの論述開始箇所を確認する。
- (8) 「実績と実積」，「購買と購売」，「概要と概用」，「相談と想談」，「当該，当核」，「部門，部問」などの誤字がないかを見直す。

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では，出題範囲が広いために，ポイントを絞った事前学習が難しいです。まずは，(1)管理と監査の違いを説明できること，(2)リスク要因，リスク，コントロール，確認すべきポイント（監査要点），監査手続，監査証拠の考え方をしっかりと説明できることが重要です。

基本的な論述の仕方ですが，確認すべきポイントを挙げておきます。

- (1) 受験者が書きやすいのではない，採点者が採点しやすい，設問文に沿った章立てをする。
- (2) 採点者が採点しやすいように，設問文にあるキーワードを使って論述する。
- (3) 設問文だけを見るのではなく，趣旨に着目して趣旨に沿って論述する。
- (4) 監査手続には，監査技法，監査技法を適用する対象，確認する内容を含めて表現する。

何にどのような監査技法を適用して何を確認するのか，明確ではない監査手続が散見されます。監査手続を記述したら，監査技法，監査技法を適用する対象，確認する内容を含めて表現しているかを確認するとよいでしょう。実際に自分が，誰かから監査手続を指示されて，その監査手続を実施できるように，具体的に表現することが重要です。なお，監査技法には“閲覧”，“精査”，“突合”，“インタビュー”などがあります。

## ■問題ごとの午後Ⅰ記述式試験講評

### 問1 デジタルトランスフォーメーション推進基本計画の監査

この問題では，監査手続を適切に表現することが重要です。記述式問題において監査手続を問われた場合は，監査手続に，監査技法，監査技法の適用先，確かめる内容を含めるようにします。

次に，問題文を読みながら監査技法の適用先，すなわち，監査証拠になり得るドキュメントを識別することが重要です。この問題では，図1にある成果物などが該当します。

## 【採点基準】

### [設問1]

“ERP 評価報告書”を必須とし，“閲覧”などの監査技法や確認する内容を含み，解答例の趣旨に合った解答であれば10点，その他は，基本的に0点

### [設問2]

“データ化”を必須とし，解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は，基本的に0点

### [設問3]

“DX 人材育成中長期計画書”を必須とし，“閲覧”などの監査技法や確認する内容を含み，解答例の趣旨に合った解答であれば10点，その他は，基本的に0点

### [設問4]

“システム基本計画書”を必須とし，“閲覧”などの監査技法や確認する内容を含み，解答例の趣旨に合った解答であれば10点，その他は，基本的に0点

### [設問5]

“DX 推進課題管理簿”を必須とし，“閲覧”などの監査技法や確認する内容を含み，解答例の趣旨に合った解答であれば10点，その他は，基本的に0点

## 【講評】

標準的な正答率の問題です。監査技法，監査技法の適用先，確認する内容が含まれていない監査手続が散見されました。特に“閲覧”などの監査技法がない解答が多いです。この公開模試を機に，監査手続を書けるようにしておきましょう。

### [設問1]

“ERP 評価報告書”が含まれていない解答，“閲覧”などの監査技法がない解答，確認すべき内容が含まれていない解答は，厳しいですが，不正解としました。

### [設問2]

“データ化”が含まれていない解答は，厳しいですが，不正解としました。

### [設問3]

“DX 人材育成中長期計画書”が含まれていない解答，“閲覧”などの監査技法がない解答，確認すべき内容が含まれていない解答は，厳しいですが，不正解としました。

### [設問4]

“ERP 評価報告書”を閲覧する旨の解答が散見されました。解答解説に記述されているように考え，厳しいですが，“システム基本計画書”を正解としました。

“システム基本計画書”が含まれていない解答，“閲覧”などの監査技法がない解答，確認すべき内容が含まれていない解答は，厳しいですが，不正解としました。

### [設問5]

“DX 推進課題管理簿”が含まれていない解答，“閲

覧”などの監査技法がない解答、確認すべき内容が含まれていない解答は、厳しいですが、不正解としました。

## 問2 モバイルコンピューティングの企画段階における監査

この問題では、[設問1]において“どのような検討”[設問2]において“どのようなコスト”，[設問3]において“どのような場合”が問われています。このような場合，“～検討”，～“コスト”，“～場合”という表現を解答に盛り込むようにします。

### 【採点基準】

#### [設問1]

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

#### [設問2]

解答例の趣旨に合った解答であればそれぞれ10点。その他は、基本的に0点

#### [設問3]

“アクセス不能となった場合”など，“場合”を含むことを必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば11点。その他は、基本的に0点

#### [設問4]

解答例の趣旨に合った解答であればそれぞれ3点。その他は、基本的に0点

### 【講評】

標準的な正答率の問題です。設問で“どのような場合”が問われている設問では，“場合”を使って解答を作成しましょう。

#### [設問1]

応答時間など性能要件に言及した解答、稼働時間や稼働率に言及した解答が散見されました。応答時間が遅いと営業効率は下がります。低い操作性、短い稼働時間や低い稼働率も同様に営業効率が下がります。したがって、厳しいですが、これらに言及した解答は、不正解としました。

#### [設問2]

教育コストを含めているかという観点で採点しています。例えば、解答を二つしても、教育コストを含めない解答は、二つで10点としています。

#### [設問3]

“場合”を明示していない解答が散見されました。厳しいですが不正解としました。

#### [設問4]

正答率の高い設問でした。

## 問3 個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査

この問題では、[設問2]で問われている“K社として確認する必要がある事項”のうち，“K社として確認する必要がある”に着目すると正答できる可能性が高まります。この記述から、表1にある“K社からの追加要求事項の内容を確認する”という記述にたどり着ければ正答の可能性は高まります。このように“事項”を修飾している“K社として確認する必要がある”に着目するなど、設問文に含まれている、解答を導くための記述を識別することで正答する可能性を高めます。

### 【採点基準】

#### [設問1]

“個人情報保護法”と“利用目的”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

#### [設問2]

“追加要求事項”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

#### [設問3]

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

#### [設問4]

(1) 解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

(2) 解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点

### 【講評】

中盤までの正答率の低い設問が影響して、全体の正答率が低い問題となりました。

改正個人情報保護法が2022年4月に施行されたので、改正箇所を確認しておきましょう。

#### [設問1]

趣旨はあっても“利用目的”というキーワードを含めていない解答が散見されました。厳しいですが、不正解としました。

#### [設問2]

“追加要求事項”を含めない解答は厳しいですが、不正解としました。正答率15%ほどの正答率の低い設問でした。

#### [設問3]

オペレータの誓約書に含まれる項目について問われている設問です。正答率20%ほどの正答率の低い設問でした。

#### [設問4]

(1) K社がB社に提供する情報について問われているにもかかわらず、オペレータの入退室記録などK社が保持していない情報についての解答が散見されました。厳しいですが不正解としました。

(2) 正答率の高い設問でした。

#### ■合格に向けての学習

##### [午後Ⅰ記述式試験]

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析するとよいでしょう。この方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

##### [午後Ⅱ論述式試験]

公開模擬試験のレビューをしたら、弱点を自己診断し、対策を講じましょう。

試験センターの試験講評を読むと、本試験においても監査手続を書けない受験者が散見されることが分かります。本試験までに、しっかりと監査手続を書けるようにしておきましょう。

本試験当日のシステム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。そのため、システム監査における基本的な、リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント（監査要点）、監査手続に関する知識を整理しておきましょう。筆者が講師を務める試験対策セミナーでは、論述式試験対策として、記述式問題を解いた後、解いた記述式問題を基に、その問題に書かれているリスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント（監査要点）、監査手続などを整理しています。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

#### ■本試験での注意

##### (1) 記述式問題では3問とも概要を確認

本試験の記述式問題では3問とも、論述式問題では2問とも、問題の概要を確認してから、解答する問題を選択しましょう。

##### (2) 集中力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。自宅

等で行った公開模擬試験で体験した体力の消耗度や集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後Ⅱ論述式試験が終了するまで、集中力を上手に配分して、試験の途中で力尽きないようにしましょう。

#### (3) 他人事ではない、問題選択の記入漏れや不適切な問題選択

今回、全て郵送にもかかわらず、記述式問題では“問題番号を○で囲っていない”など、7%ほどが問題選択に関するミスがありました。問題選択の記入ミスは、決して他人事ではありません。筆者も論述式試験において終了直前に記入漏れに気付いたことがあります。本試験では、解答提出時の最終確認を怠らないようにしてください。

合格に向けて、がんばりましょう。

—以上—